

アイデアと創意工夫で 顧客満足度を上げる

(株)エレガントウッドコーポレーション
社長 石井 登志朗さん



今回の夢追い人は、(株)エレガントウッドコーポレーションの社長、石井登志朗さん。優雅さを持つ内装材を製造・販売している。主にデザイナーが空間デザインをするために使用するパネル類である。会社名のエレガントの定義を辞書で調べると、『優雅なさま、上品なさま』となっている。まさに石井さんが開発している

る製品は、エレガントそのものである。

通常製造している製品に、木目を合わせた壁面パネル(羽目板)、凹凸でデザインしてある化粧板(エレガントリブ)。裏には縦から表には横から凹凸の加工して交差するところが透けて見えるパネル(PEER(写真1))。なぐり掘りの跡を残したパネル(NAGURI)。

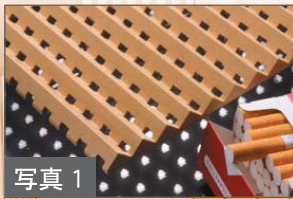
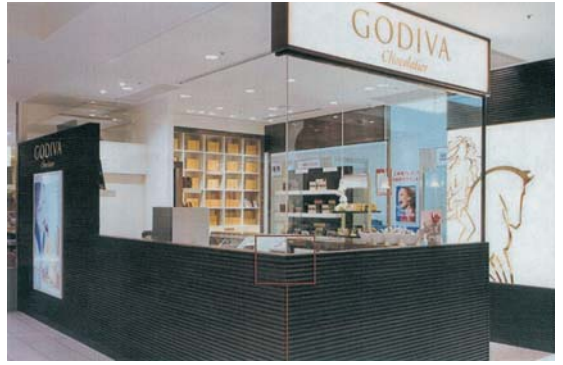


写真1





GODIVA

た能力を磨いてこられたのだろうか。「無理難題に面しても考え抜く、アイデアを振り絞る姿勢だと思えますね。大変ですけどね（笑）。そして、普段から”も”と出来ないかな”と”といった考えを持っているからではないでしょうか。」と石井さんはいう。

「ルイヴィトンの施工関連の会社から依頼された立体的な市松はNC加工等では、どうしてもできない形でした。どうしようかとか考えあぐねました。しかし、発想を変え、手作業を加えることで解決しました。立体的な市松にするのができました。こうして手間はかかるけどツキ板加工の

製品にすることができました。」
火事で有名になった、ダイヤモンドプリンセス号の話もしてくださった。

「ダイヤモンドプリンセスのイタリアンレストランの施工をする会社から、アールのついた縦リブ付き天井不燃見切りを依頼されたとき、全体が曲面になっていたので非常に難しさを感じました。縦のスリット部分をつけることで（この点の詳細は企業秘密になるので詳しくは書けません）、曲面に対応できました。これは、思い悩みましたが、アイデアをひと捻りしてうまくいった例です。」

それからエルメスの事例。「エルメスの銀座本店の場合には、塗装だけ依頼されて、いろいろな面で勉強させられました。ブランドショップの化粧材は、非常に厳しい基準が要求される為（ため）、もしトラブルが起きても、補修可能なやり方、短縮した納期に対応できる製造工程を考慮しなければなりません。検討を重ね、最終的に、木地着色をし

ないUVでのサンディング、研磨、フラットに着色剤を入れた塗装で仕上げることにしました。おかげで、納期も短縮でき、何種類も使ったツキ板に着色塗装をスムーズに出来ました。」

まさに一回一回が真剣勝負。

石井さんは、全国のデザイナーにサンプルを提供しPRしているが、事業拡大のためネットを含め今後さらにPRに力を入れるつもりである。製品に対して概して良い反応があるものの、手間がかかる製品を使って戴くために、製品のコストパフォーマンス、空間演出に資するデザインなどをもっと深く知ってもらい

たいと願っている。

優雅な製品、そして柔軟な視点と前向きな姿勢をもつ、エレガントウッドコーポレーションの今後に期待したい。

福岡国際会議場



ホール

通路 柱壁面

通路 壁面